

鳥取西高近畿同窓会報

第 5 号
2013年3月1日発行

発行：鳥取西高等学校近畿同窓会
発行責任者：高野泰明（西高昭25年）
編集責任者：山内紀嗣（西高昭43年）

鳥取西高近畿同窓会

創立五十周年を祝して

西高近畿同窓会会長
高野 泰明（西高二五年卒）

近畿地区ご在住の鳥取西高卒業生の皆様、輝かしい平成二五年を、ご健勝でお迎えになりましたことを心からお喜び申し上げます。また鳥取西高近畿同窓会の活動にもご協力いただき厚くお礼申し上げます。

我が母校は鳥取藩校尚徳館の伝統を受けて明治六年（一八七三年）に変則中学として開校以来本年で一四〇年を迎える名門校であります。その間、明治三二年（一八九九年）に鳥取県立第一中学校と改称、更に昭和二四年（一九四九年）に教育制度改革により県立高等女学校、県立商業高等学校を含む三校を併合、県立鳥取西高等学校として再出発し今日に至っております。又卒業生も五万数千人を数え各分野で活躍されていることは同慶にたえません。

さて、我が近畿同窓会ですが昭和三七年（一九六二年）に創立され、本年が五〇周年にあたります。私達の先輩が近畿同窓会を創立されたことは、東京の鳥城会の創立が昭和四九年（一九七四年）であることから考えても、先見性のある卓見であると思えます。



現在、近畿在住の同窓生は一八〇〇名くらいと考えられます。誠に残念なことは総会出席者が非常に少ない事です。この種の組織はどこでも無関心化が悩みが悩みの種のような事です。

長として責任を痛感しております。私たちは何とかこれを打開すべく皆様に呼びかけると同時に、新しい対策も考えたと思っております。今近畿同窓会が高齢化と中堅、若年層の減少が問題です。今後年代別役員の配置による掘り起しをキメ細かくやり会員増強をはかり、総会運営の任り方も検討するつもりです。高齢者の出席も今まで以上にお願



智頭街道から久松山を望む

いし、中堅、若年層の補充を図って本年総会には百名以上の参加を達成したいと思えます。又、各県人会との連携も考えるべきです。関西連合では「鳥取県フアンの集in関西」を年一回、知事、各市町村長を囲み大いに郷里を語る会を開催しています。大阪鳥取県人会では一二年口を迎える「鳥取学出前講座」を一回も欠かすことなく一〇八回続けております。他の何処の県市にもない鳥取県人会独自の看板行事です。県外の人も参加されています。郷里訪問旅行会やゴルフ会など多彩な活動を行っていますので、これらの諸行事にも積極的に参加していただきたいと思っております。

私は平成七年（一九九五年）に近畿同窓会会長に就任して一八年目になります。高齢になりましたし、長年月会長職を汚しておりますので、この際若い人と交代し、鳥取西高近畿同窓会の再出発を期したいと思います。今までのご協力に感謝し、皆様の今後のご多幸をお祈り申し上げます。

第 50 回

鳥取西高近畿同窓会のお知らせ

期 日：平成25年6月30日（日） 11:00～15:30

受付は 10:30 より

会 場：大阪キャスルホテル6階

大阪市中央区天満橋 1-1 Tel 06-6942-2401

①総会：11:00 ②懇親会：12:00～15:30

会 費： ¥7,000 〈会場にご持参下さい〉

(29歳以下の方は ¥5,000)



今年は第 50 回記念同窓会です

久しぶりに楽しい鳥取弁で

同級生を誘って参加して下さい

会場は天満橋駅のすぐそばです

記念講演会

講師 鳥取県立公文書館歴史編纂室長 岡村吉彦氏

演題 「織田 VS 毛利の鳥取城攻防戦と歴史的意義について」

詩吟ひとりごと

米村博昌(西高三四年卒)

多くの人は記憶があると思いますが「心に太陽を、唇に歌を持って」の一節は、小学校低学年の国定教科書に出ていたように思います。太陽を何にするかは各人の価値観や考え方によるのですが、私の歌は詩吟になりました。

詩吟を始めたきっかけは西高での漢文が欠点ばかりなのに、及第させてもらった忘れ得ぬ心の痛みと、社会人になって芸なしである自分に気付いた頃に、詩吟部活動のある所属に転動した時で、今から半世紀も前の事です。しかしながら、今になっても作詩や読符のない漢文が読めるようには成れていません。

でも、現在の私の心境は
一、森羅万象を限られた文字数の中に詠み、それが現在までの私に、生きた教訓や真理として感動を覚えさせ
二、感動が雄叫びとして口から増幅され
三、朗吟後の心身の清々しさが健康を増進させる。

四、お金も用具も要らず、声が出る人ならだれでもできる。
事を痛感しているものであり、先哲の成せる日本文化の一ジャンルを是非共、次世代に伝承・維持・発展させてほしいと念願しています。



五十周年を迎えて

谷口正夫(西高四三年卒)

この度の西高近畿同窓会創立五十周年にあたり、これまで本会の運営にご尽力された歴代の会長様をはじめ役員幹事の皆様方に心から感謝の意と敬意を表したいと思います。

さて、一昨年の東日本大震災以降「絆」ということがよく話題になっていますが、私にとってこの近畿同窓会は豊かな人間関係を育んでくれる「絆」のひとつになっています。私は退職までの三七年間、教職についておりましたが、当然ながら子どもたちをはじめ同僚や先輩後輩との、まさに人と人とのつながりの中で生きてまいりました。ところが退職した今では、これまでに当然と思っていた「人とのつながり」は、決して当然なことではなく自分から関わっていかうとする意志と周りの人々の思いやりがあつてこそ、はじめて「つながる」ことができるのではないだろうかと思つています。そして、この「意志」と「周りの人々の思いやり」こそが「絆」であり「人とのつながり」です。
心豊かな人生を送つていくためには様々な「絆」が大切です。この西高近畿同窓会が益々強い「絆」で結ばれ更に発展しますよう、微力ではありますが協力してまいりたいと思つています。

会員の近況



(昨年の返信葉書通信欄より)

山中孔(一中五四回)永く大阪で世話になつており、多少のお返しにと有志でNPOを結成。「これからの住まいを考える」で勉強中。

橋谷義男(一中五六回)歳相応に元気に暮らしています。

山 隆(一中五六回)勇往邁進、中学時代をかえりみながら体と頭の元気を保つことにつとめています。

齋藤昌多(高女一六年卒)今年も元気に誕生日をにぎやかにすごすことができました。

西原卓恵(西高二五年卒)元気に過ごしています。欲張らないでできることをコツコツやっています。

石原喜代子(西高二六年卒)年相応にボチボチ過ごしております。

樋と佐恵子(西高二六年卒)年齢にさからえませんが、ぼつぼつですが神戸で四柱推命の師範として教室をひらいています。

平田マリ子(西高二七年卒)お陰様で老人会のお世話をさせていただいています。

森西良俊(西高二八年卒)「東進作戦」と名付けて関東、東北の市場開拓を指揮しています。

松永澄子(西高三〇年卒)現役は引退して特別外務顧問として今までと同じ仕事をやっています。

黒田恵美子(西高三四年卒)関西での生活も半世紀を迎えております。久松山下の西高で過ごした三年間、懐かしく思い出す度、気持ちだけでも若返ります。

荻原加代子(西高三五年卒)週二回、仕事へ、園芸。毎朝七時からグラウンドゴルフの練習です。今のところ楽しんで元気に過ごして居ります。

布川渥史(西高三七年卒)定年退職後、公立学校退職者二三〇名程の世話係となり、現在事務局を持ち、多忙な日々を過ごしています。

荒木芳慧(西高四〇年卒)退職して六年がたち、介護しながらも週一回あるテニススクールで楽しんでます。若いコーチにとっても素直な楽しく明るい熟年パワーを見せています。

香谷英一郎(西高四一年卒)東大阪の公立中学校の校長を退職後、現在、八尾市にある私立中学校に勤務しております。

吉田 章(西高四二年卒)名誉院長(三菱京都病院)になりました。定年後五年目になります。同様に診療を続けています。

中島寛治(西高四三年卒)昨年四月に再就職し、日本と上海で半月ごとの生活をしています。

坂岡隆司(西高四七年卒)校歌の「真理の前につましく・」というところがつくづく良いなあと思うこのごろです。

山根満雄(西高五一年卒)東京での単身生活を終え、神戸に戻り、NPO法人を手伝っています。



鳥取一中

昭和八年の思い出

川口重義(一中五〇回)

昭和8年当時は牧歌的な雰囲気、漂う平和な時代でした。

千代川河口の砂丘の多い土地に少年時代を過ごした私には、日本海と砂丘は恵まれた遊び場でした。時々、夏の炎天下、鳥取連隊の演習に出会い、兵隊さんも大変だなど思うこともありました。その頃、少年野球も盛んで、砂地の野球場で試合をやり、大いに氣勢を上げていました。当時、鳥取一中の野球部は県下でも強豪の名をほいままにしています。

小学校六年の折、私の父から一中受験を指示された時、嬉しさより苦しさを感じました。当時、一中の入学は難関で、私の村からは一、二年に一名くらいしか入学できていません。そこで、野球をやっている同士に呼びかけ、十名くらいで猛勉強を始め、七名が入学した。そのうえ、村出身の大谷先輩の御推挙もあり、角脇浜中、私と三名が野球部に入学でき、とても感激した思い出があります。さらに、二級上の大江先輩、一級上の深沢先輩を含め、一つの村から五名の野球部員が存在したことは今でも忘れられない感激でした。

入学してからは私は怪我に弱く、活躍できませんでした。しかし、夏の柴田記念館での合宿の炊事当番の思い出、冬の濠場の球拾いの辛さなど、懐かしい思い出は私の宝です。当時の野球部には有名選手が多く、小谷、小野沢、岡田、釜田、藤井、中河、米田などの錚錚たる先輩の活躍が今でも鮮明に目に浮かびます。春の選抜大会で沢村投手の京都商業に三対一で打ち勝った時の感激は今も忘れられません。



私の青春

山根立乃(高女二二年卒)

故郷を離れ、美しい海岸と松林の続く堺市浜寺諏訪森に定住して五十年近くになる。浜寺公園の彼方から、岡野貞一の名曲「ふるさと」が私の耳元に流れ、鳥取の故郷が脳裏をかすめて通り過ぎる。

例えば、母に手を引かれて千代川の上手で土筆や蓬採りをした幼少時代、六年生になると、紺色のスカートの裾に一本の白線が通った制服に憧れて勉強し、入学した久松山下の鳥取高等女学校、その二年後の秋、昭和十八年の鳥取大震災で我が家は全壊。私はその下敷きとなり、この儘あの世へ、、、という恐怖心と闘いながら、瓦礫の中で生死を彷徨い、一夜を明かした。神仏に縋る思いが通じたのであるうか、真暗闇の世界の一隅から一条の光明が全身を照らし、命を蘇らせてくれた。泥人形よ

うな姿の私は伊吹植物園(今は無い)入り口に張られたテントに運ばれる途中、黄色く実った稲穂に溜まった雨水で喉を潤し、九死に一生を得て再び学生生活を取り戻した。しかし、戦時中の事、経済的に衣食住の総てどん底生活。その上、十分な教育も受けられない儘卒業した。その後、師範学校へ進み、四十年近い教職生活。退職後は専業主婦として第二の人生を歩んだ。目を瞑ると、過ぎし日々の八十年間の生活模様が走馬燈のように眼前を走る。

今にして思えば、華やかな女学生活ではなかったが、いかなる辛苦にも堪え忍ぶ忍耐力と夢と希望に向かつて自力で生き抜く強い精神力を学んだ。

「貧と苦から」を磨け、幸せはあとからついてくる。不言実行の父に励まされ勇気づけられた青春時代であった。この言葉を私の座右の銘として残る人生を全うしたい。

若き日の糧

田口徹(西高四二年卒)

四三年前、大学卒業後、就職をせず、アルバイトで蓄えたお金を持って、三年間海外旅行をしました。神戸から「ブラジル丸」という移民船(今はない)に乗り、アメリカへ。その船で西高陸上部後輩の石河照大君に偶然会い、上陸後しばらく行動を共にしました。石河君は帰国後「中南米新聞社」を立ち上げ、埼玉で頑張っておられます。

私は現在、小さな建築会社で役員をしています。海外での生活は物事を考える上での規範となりました。年に三〜四回は帰省します。おもに墓参りですが、その時は必ず西高を見に行きます。お城から正面玄関に向かい、部室のあった長田神社近くに車を止め、陸上部の練習で久松山に毎日走って登ったことを思い出します。

今年六五歳になりますが、今まで大きな病気はありません。西高時代に体を鍛えたことが体力の基礎になつてくれたと思います。

西高の大先輩でもあり、小学校の担任だった村江汎愛先生から「一日一日を大切に残りの人生を過ごさなさい」と葉書を頂きました。本当にそう思います。この後、何年現役で頑張れるかわかりませんが、おいしいものを食べ、仲間とゴルフを楽しみ、元気になる源を探して残りの人生を大切にしたいと思っています。



男の腕まくりOB会

谷 紀昭(西高三〇年卒)

男女共同参画の実現を目的に羽曳野市が開催した男性向けの料理教室に参加し修了した参加者が「これで終わっては身に付かない」「料理を通じて広く交流を深め、これからの暮らしをさらに充実させていきたい」として平成一九年にOB会を立ち上げ会長として六年目を迎えました。OB会は基本的に定年退職した男性を対象に会員三〇名で月一回の料理教室を開催しています。

会員たちの教室での模様などはホームページで紹介するほか、テレビや雑誌などのメディアを通じて全国に発信してきました。その結果、平成二四年五月に内閣府男女共同参画局から「男性の地域活動への参画好事例」として取り上げていただき、その評価に会員たちはみな大いに喜びました。OB会はこれを機会に今後とも地域に貢献できることを考えながら活動を楽しみ、素晴らしい熟年男性の集団を目指し、生き生きとした熟年男性の輪を拡げていきたいと思っています。

鳥取二ユース

①西高改築問題(四)

かねてより西高の改築問題がありましたが、昨年、県教育委員会は将来の移転を銘記して現在の建物の耐震改修を行う事を決定しました。文化庁が文化財保護の観点から、将来は史跡外に移転を要請していたからです。

現在の建物は建設から五〇年を経過しており、強い地震には耐えられなくなっていました。工事は平成二四年度から始まり、平成二七年に完成の予定です。その間は正面玄関へつながらる道路は通行できません。完成すると三ノ丸の石垣などがよく見えるようになります。完成後は是非、行ってみてください。

②鳥取自動車道完成
三月二三日に鳥取自動車道が完成します。これまで大原と西六粟の間が未完でしたが、これで大阪から鳥取まで直通で行けることとなります。所要時間は約二時間半となります。しかも永久に無料です。



平成二四年度総会報告

第四九回鳥取西高近畿同窓会は昨年六月二十四日に大阪キャッスルホテルで開催されました。鳥取からは坂口祐二校長、美田康彦総務部長、そして松下栄一郎同窓会副会長(現会長)が出席され、総勢五十名の参加がありました。

総会では高野会長から来年の五〇回総会の記念として、多くの会員に出席して頂けるように協力要請がありました。また、当会の名誉会長でありました故鬼塚喜八郎氏への顕彰事業への寄付金の協力依頼もありました。続いて、坂口校長より西高の教育と各クラブ活動状況の報告、松下



副会長の西高校舎移転問題についての説明がありました。

懇親会では昨年に引き続き村江汎愛さんと谷口正夫さんによるハーモニカ演奏などのほか、植村京子さん、川口重義さんによる歌や米村博昌さんによる詩吟の披露がありました。最後はいつものように校歌を高らかに斉唱し、なごやかに終了しました。

平成23年度西高近畿同窓会会計報告

(平成23年1月1日~12月31日)

収入		支出	
収入	金額	支出	金額
前年度繰り越し	1,326,229	通信費	50,740
年会費収入	236,520	印刷費	57,626
総年会費収入	293,000	総会費	424,711
雑収入	286	雑費	14,506
		次年度繰越	1,308,452
合計	1,856,035	合計	1,856,035

平成二四年四月十一日、齋藤哲也・谷紀昭の両氏に会計監査していただきました。

鳥取西高近畿同窓会役員

- 会長: 高野泰明(西高25年)
- 副会長: 田中 勲(一中56回)、高野彰允(西高36年)、太中繁夫(西高26年)
- 幹事長: 米澤道隆(西高39年)
- 幹事: 中嶋照夫(西高26年)、太田匡四郎(西高26年)、岩永建大(西高42年)、安宅寿昭(西高43年)、本家公一(西高43年)、出谷建二(西高44年)、川上浩一(西高50年)
- 監査: 齋藤哲也(西高28年)、谷紀昭(西高30年)
- 事務局長: 村江信幸(西高43年)